僕の人生よかったな、と思える部分をシンジに投影したい

貞本　実は、人とのコミュニケーションの話を始めたのは漫画のほうが先だったんですよ。本編は使徒との戦いがメーンになるだろうと思っていたら、庵野さんもコミュニケーションのほうにいった。だから最近は路線変更をしようと思ってるんです。同じことをやってもしょうがないし。コミュニケーションがうまくいかないというアニメ版の大きなテーマから、あえてそれてみようかなと。登場人物の性格も、だんだんとアニメとは違ってきたかもしれないですね。

——漫画にも、先日発売された第4巻でアスカが登場しましたが、アスカについてはどんな女の子にしようとお考えですか。

貞本　アスカは性格的に、いい子➡ぶっていたり、二面性があるところなんかはアニメにも通じるんですが、シンジにとってアスカが〝異性〟として、ある程度尊敬できる、あこがれを感じるような存在にできたらなと思っています。時には友達、時にはライバル、でも時には異性、と。

アスカとシンジが使徒を倒すためにユニゾンを組む話では、アニメであったキスシーンをあえてやらなかったんですよ。男から見たら初めてのキスというのは魅力的な事件ではある。でもキスってなんだろうと考えちゃうと、好きな子と肉体的に結ばれる最初の事件じゃないですか。

それよりも精神的つながりが先のほうが、僕にはリアリティーがあるかなと。それに男と女の精神的つながりも、14歳だと大人よりピュアに描

とってはキスみたいなものですね。

——漫画ではアスカの出生が試験管ベビーということになっていますね。

貞本　アスカには、結構辛いゆがんだ部分があって、それを強く出そうと思ったんです。アスカは異性同士で愛し合って生まれた子ではない、という。アスカの母は男に愛されなかった。彼女もそれを引きずって、男なんていなくても生きていけると思っている。でも心のどこかで父や男性的なものを求めていて、加持に甘えたり、シンジに対しても、拒否してる部分と、自分を抑えきれない感情があって、だんだんシンジを好きになっていく。そんなふうに描けたらいいと思ってます。

——レイについてはいかがですか。➡

貞本　シンジにとって、アスカがあこがれの異性の象徴だとすると、レイは〝母性〟だと思っています。シンジの母親の遺伝子をもっているみたいだし。僕自身が、アスカとレイどっちが好きかと言うと、たぶんレイで、どこか母性的なものをもっていて、シンジがくじけそうになったら優しく〝けなして〟くれるわけです。レイはシンジに「また、逃げるの」って、結構、トドメを指すようなきついことを言うんですが、友達が言ったら絶交になってしまうようなことばなのに、なぜかそうならない。それは母親は絶対に子供を見放さないからなんです。シンジにとって、レイはそんな存在なのかなと。

これからのシンジを描くためにすること

分の意志を表に出したりと、成長しているように見えます。これから先、彼はどのように変わっていきますか。

貞本　成長っていっても、人は本質的なところでそんなに変われるわけじゃない。一見大人になったように見えても、それは違うかなと。だからこれまで、友達ができたり、気になる異性が出てきたりと、ポジティブで大人になったように見える彼を、一回、ぶちのめさなきゃと……。

いままでは、シンジがひねくれていた理由も、親父さんが、叔父さんが、と周りのせいにできたわけだけど、大人になってくると、それでは済まされなくなってくるんです。自分が言ったことやったことで、人が傷ついたりするとか……。だからこれからのシンジには、いままでのように殻にこもって黙っていればやりす

➡「エヴァ」の企画書用に描かれたキャラクター集合イラスト。ケンスケ、トウジが実際のキャラと少しイメージが違う

「オネアミスの翼　王立宇宙軍」

⬆貞本がキャラデザとして参加したガイナックス初の長編劇場アニメーション

「ふしぎの海のナディア」

⬆そしてガイナックスの名を広く知らしめたNHK放送作品！

悲惨なことが出てくるかもしれない。

——まだ先ですがラストはどうなりますか。アニメのようにシンジとアスカのつながりを描くのでしょうか。

貞本　そこが難しい。どうなるかまだわかりません。ハッピーエンドにしたいとは思ってます。でも何がハッピーかというと、劇場版だって、あれはあれでハッピーだし。人間は、生まれたときと死の瞬間は何もないわけで、生きる過程が楽しくないと生きられない。シンジもつらいけど生きていたいと思った。だからハッピーなんですよ。

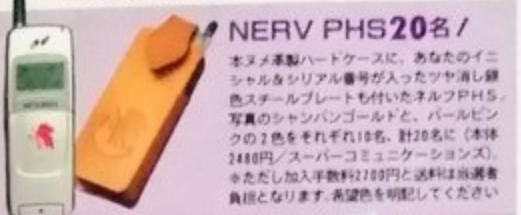
それでも一方で、少年漫画として、もっとわかりやすいハッピーエンドはないかな、とも思いますね。

——今後ストーリーを描くうえで、どんなことが鍵になるのでしょうか。

貞本　結局それは、僕の生き方そのものに行き着いちゃうと思うんです。シンジが生きていこうと思う過程を描くためには、僕自身が「僕の人生よかったな」と言えなくちゃいけない。まだ僕はそんなことを振り返るほど生きてはいないんだけど、なんとかいまの段階で、僕の人生よかったなと思えるように試行錯誤していって、その結果シンジに「あ、こういうふうに考えていけばいいんだ」って言わせられればと思います。

＊　＊　＊

さまざまな話が飛び出した今回のインタビュー、君はどんな感想をもっただろうか。漫画はさらに盛り上がるので、これからもお楽しみに!!

PRESENT

新製品をどーんとプレゼント／で、君のココロを補完する//
“エヴァサンタ”はもうそこまで来ているのだっ!?

NERV PHS20名／

本ヌメ革製ハードケースに、あなたのイニシャル&シリアル番号が入ったツヤ消し銀色スチールプレートも付いたネルフPHS。写真のシャンパンゴールドと、パールピンクの2色をそれぞれ10名、計20名に（本体2480円／スーパーコミュニケーションズ）。※ただし加入手数料2700円と送料は当選者負担となります。希望色を明記してください

カードダスマスターズ5名／

「THE END OF〜」が12月中旬に、1パック7枚＋説明カード入り（税込330円、発売：セガ・エンタープライゼス、製造：バンダイ）で全132種類のカードになる／　うちスペシャルカードは6枚。貞本義行ほか作画監督陣による描き下ろし。15パック入り1箱をセットにして5名にプレゼント//
※右の絵柄は実物の商品とは異なります

'98年カレンダー6名／

来年も毎日「エヴァ」といっしょにいたい君には描き下ろしの豪華カレンダーを。写真左がB2サイズ、イラスト全7枚、2000円（ムービック）。右がA2サイズ、イラスト全7枚、1600円（天田印刷加工）。ともに好評発売中だ。これらを各3名、計6名に。希望商品名は「カレンダー／ムービック」もしくは「カレンダー／天田」と明記

カレンダージグソー3名／

こちらは1000ピースのジグソーパズル…と思いきや、完成すると'98年のカレンダーとして使えてしまう「1998カレンダージグソー」（3200円、発売：セガ・エンタープライゼス、製造：天田印刷加工）。完成品はタテ500mm×ヨコ750mm。月をバックにした零号機と綾波レイ…はなんだかとっても意味深なカンジ。これを3名にプレゼント／

メタルレリーフカード3名／

トレーディングカードとほぼ同サイズ（89mm×64mm）の厚みある鉛合金製インゴットにレリーフ状に彫り込んだ、エヴァ初号機とレイ、2タイプ（各2800円、発売：セガ・エンタープライゼス、製造：天田印刷加工）。凹凸が10mm近くあり、細部のディテールにもこだわりが見られる。小さいながら重厚感あるこれを2種類1セットで3名に／

4号機リアルモデルを3名に／

幻の機体、ついに登場／ということで「リアルモデルシリーズNo.11エヴァンゲリオン4号機」が発売された（1980円、セガ・エンタープライゼス）。全高約18cm、塗装組立済みで、関節可動のためポーズ変更もできる。しかも専用輸送台兼拘束具付きなのだ。この幻の4号機を3名に。大切に飾るも、楽しく遊ぶも君したいな一品／

応募方法

上記プレゼントを希望の方は官製はがきに郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年齢、職業、電話番号を明記のうえ、〒102-77 株角川書店 ニュータイプ「NT12エヴァプレゼント」係へ。希望商品名（ひとつ）をお忘れなく。12月9日当日消印有効。当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。PHSに関しては、当選後、別途料金がかかりますのでご了承のうえご応募ください。Xmasも「エヴァ」三昧だ／

「R20」
●NT'91年12月〜'92年4月号にわたり連載の短編漫画

「蒼きウル」
●「王立宇宙軍」の続編ともいうアニメ作品。現在も企画進行中!?

●「エヴァ」の企画書用に描かれたキャラクター集合イラスト。ケンスケ、トウジが実際のキャラと少しイメージが違う

る

「オネアミスの翼 王

●貞本がキャラデザとして参

貞本　実は、人とのコミュニケーションの話を始めたのは漫画のほうが先だったんですよ。本編は使徒との戦いがメーンになるだろうと思っていたら、庵野さんもコミュニケーションのほうにいった。だから最近は路線変更をしようと思ってるんです。同じことをやってもしょうがないし。コミュニケーションがうまくいかないというアニメ版の大きなテーマから、あえてそれてみようかなと。登場人物の性格も、だんだんとアニメとは違ってきたかもしれないですね。

――漫画にも、先日発売された第4巻でアスカが登場しましたが、アスカについてはどんな女の子にしようとお考えですか。

貞本　アスカは性格的に、いい子

漫画における登場人物の役割

――漫画版では、物語の設定や人物の性格などにアニメと違ったオリジナルの部分が加えられてますね。

とつの物語が残った。

僕の人生

――漫画にも、先日発売された第4巻でアスカが登場しましたが、アスカについてはどんな女の子にしようとお考えですか。

貞本　アスカは性格的に、いい子

ぶっていたり、二面性があるところなんかはアニメにも通じるんですが、シンジにとってアスカが〃異性〃として、ある程度尊敬できる、あこがれを感じるような存在にできたらなと思っています。時には友達、時にはライバル、でも時には異性、と。

アスカとシンジが使徒を倒すためにユニゾンを組む話では、アニメであったキスシーンをあえてやらなかったんですよ。男から見たら初めてのキスというのは魅力的な事件ではある。でもキスってなんだろうと考えちゃうと、好きな子と肉体的に結ばれる最初の事件じゃないですか。それよりも精神的つながりが先のほうが、僕にはリアリティーがあるかなと。それに男と女の精神的つながりも、14歳だと大人よりピュアに描ける気がして。漫画で描いた、2人が音楽に合わせて踊る場面が、僕に

とってはキスみたいなものですね。

――漫画ではアスカの出生が試験管ベビーということになっていますね。

貞本　アスカには、結構辛いゆがんだ部分があって、それを強く出そうと思ったんです。アスカは異性同士で愛し合って生まれた子ではない、という。アスカの母は男に愛されなかった。彼女もそれを引きずって、男なんていなくても生きていけると思っている。でも心のどこかで父や男性的なものを求めていて、加持に甘えたり、シンジに対しても、拒否してる部分と、自分を抑えきれない感情があって、だんだんシンジを好きになっていく。そんなふうに描けたらいいと思ってます。

――レイについてはいかがですか。➡

貞本　シンジにとって、アスカがあこがれの異性の象徴だとすると、レイは〝母性〟だと思っています。シンジの母親の遺伝子をもっているみたいだし。僕自身が、アスカとレイどっちが好きかと言うと、たぶんレイで、どこか母性的なものをもっていて、シンジがくじけそうになったら優しく〝けなして〟くれるわけです。レイはシンジに「また、逃げるの」って、結構、トドメを指すようなきついことを言うんですが、友達が言ったら絶交になってしまうようなことばなのに、なぜかそうならない。それは母親は絶対に子供を見放さないからなんです。シンジにとって、レイはそんな存在なのかなと。